

平成 26 年燧灘カタクチイワシ漁況予報

平成 26 年 6 月 20 日

香川県水産試験場

香川県では、平成 5 年から燧灘海域において、愛媛県、広島県と共同でカタクチイワシの資源管理に取り組んでいる。平成 25 年の共販の取扱数量は 1,993 トンで、前年比 120%、平年比（平年値：平成 5 年～平成 24 年までの平均）125%であった。取扱金額および平均単価はそれぞれ 12 億 6,157 万円（前年比：95%，平年比：95%）、633 円（前年比：79%、平年比：73%）であった。平成 25 年の共販量は大羽が前年，平年より多かったものの，カエリやチリメンの減少が大きく，特に主力銘柄であるチリメンは前年・平年と比べて大幅に減少し，平年比で 8%となった。共販金額でも大羽は大幅に増加したが，小羽，カエリ，チリメンが振るわず全体として前年，平年を下回った。ここでは，過去 20 年間の調査を基に，平成 26 年 6 月下旬以降の漁況予測を行った。

1. 水 温

燧灘東部沖合 4 点における水深 10m の水温の変化をみると，1 月から 6 月の水温は 2 月を除き「平年並み」で推移していた。前年と比べると 2 月で高く，その他の月はほぼ同じ推移をしている。カタクチイワシは水温が約 13℃以上になると産卵を始めることが知られており，今年も昨年同様に 5 月間近になってから産卵が始まったものと思われる。6 月 2 日の水温は平年並で，前年より 0.1℃低かった。

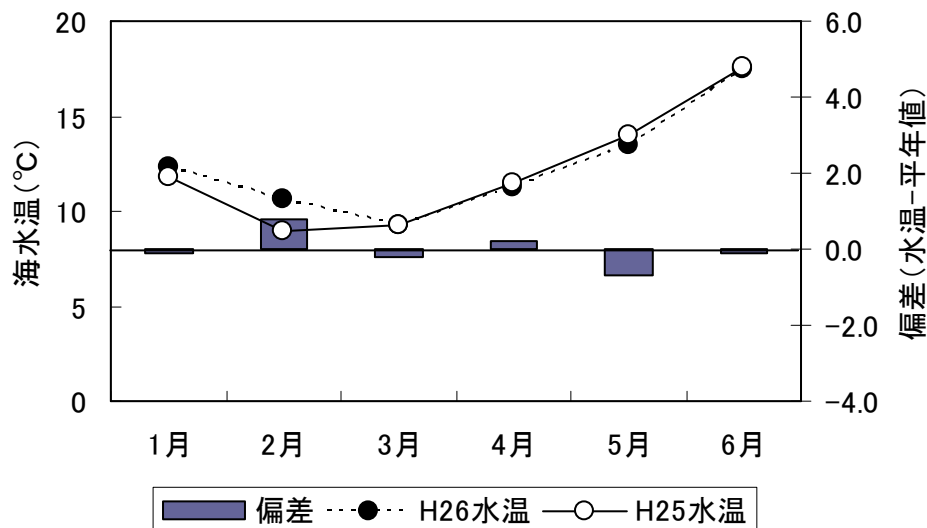


図 1 燧灘における水深 10m の水温の季節変化

2. カタクチイワシの卵と仔魚の出現状況

カタクチイワシの卵稚仔の出現状況について調べるため，4 月上旬から 6 月下旬の間に合計 7 回の卵稚仔調査（浅海定線調査を含む）を行った。卵稚仔の採集はマル特 B ネット（口径 45cm）の 20m 鉛直曳きで行った。

カタクチイワシの卵は4月中旬から出現した。4月中旬～5月上旬にかけての出現量は概ね平年並みで、5月中旬は平年より多め、5月下旬は平年並み、6月上旬は前年および平年を大幅に上回る量の卵が出現し、6月下旬にも多めの卵が出現した（図2）。仔魚の出現量については、5月上旬は平年を下回り、5月中～下旬は平年並み、6月上～下旬は平年より多めに出現した（図3）。これらのことから、産卵量は平年より多いものと考えられる。

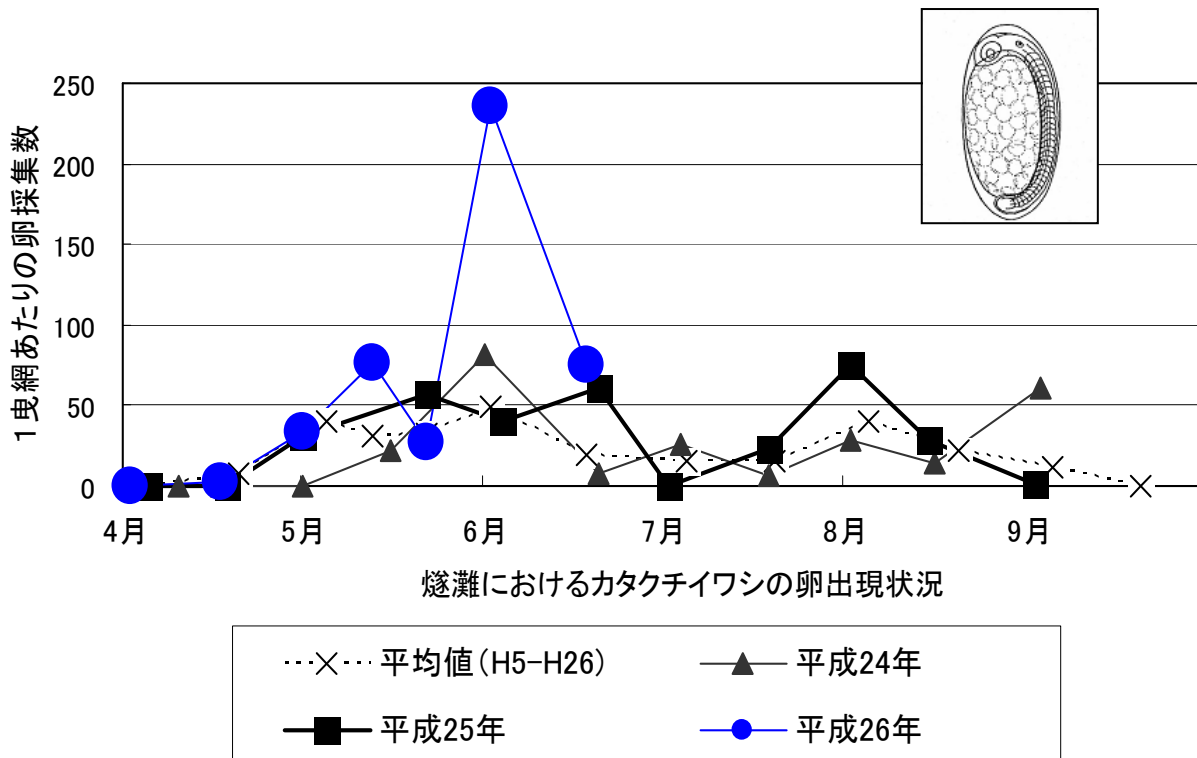


図2 1 10m網あたりのカタクチイワシ卵の採集量

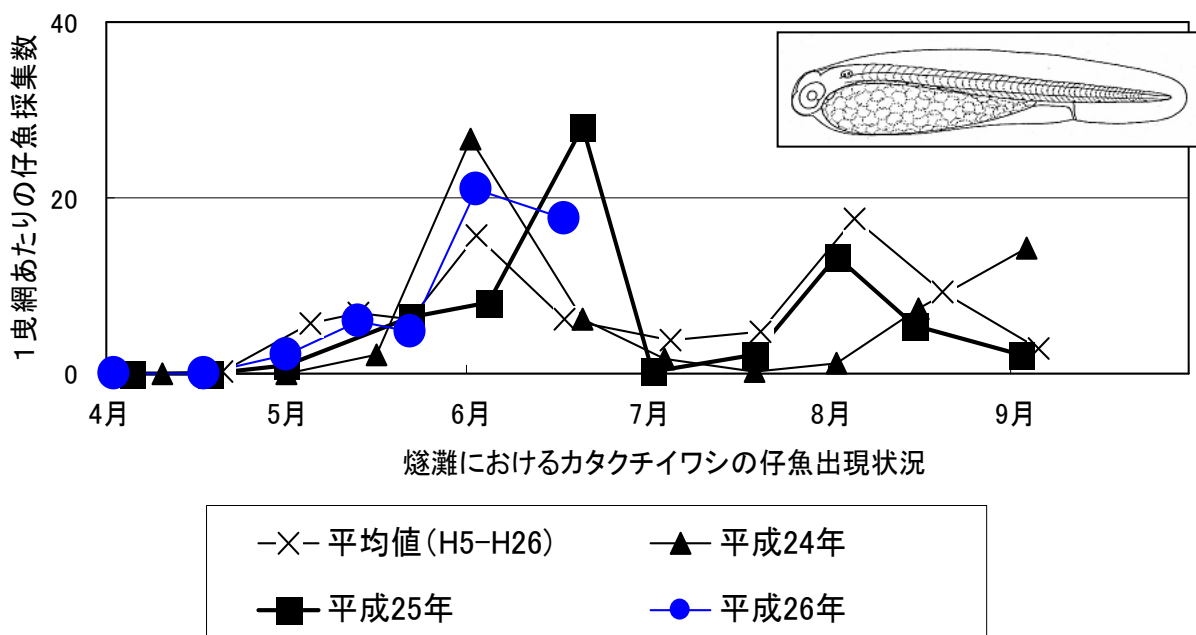


図3 1 10m網あたりのカタクチイワシ稚仔の採集量

3. プランクトン

口径 45cm のマル特Bネットで動物プランクトンと大型植物プランクトンの調査を実施した。4月上旬から6月中旬までのプランクトンの優占種と沈殿量を表1に示す。

4月～5月上旬までのプランクトンの量（沈殿量）は前年より多め。5月下旬から6月上旬までのプランクトン量は、前年並み、6月下旬のプランクトン量は前年より少なめであった。プランクトン優占種は6月上旬まで、ほぼノクチルカ（夜光虫）であった。カタクチイワシの主餌料であるカイアシ類（COP）の占める割合は、6月下旬には、若干多くなったが、餌料環境としては低い水準にあると考えられる。

また、6月下旬の卵稚仔調査では、魚類の卵や仔魚を捕食するカブトクラゲが全域で高い密度で出現しており、カタクチイワシの加入量への影響が心配される。

表1 プランクトン優占種と沈殿量の推移

	4月中旬	5月上旬	5月中旬※	5月下旬	6月上旬	6月下旬
平成 26 年 (沈殿量 mL)	NOC	NOC	NOC COS	NOC	NOC SAG	SYP SAG COP
	30.3	15.3	7.3	1.8	2.0	2.3
平成 25 年 (沈殿量 mL)	NOC COS COP	NOC		NOC	RAD	COP
	5.1	4.1		1.4	2.1	7.0
平成 24 年 (沈殿量 mL)	NOC	NOC COS COP		NOC SAG COP	NOC COP	DOL NOC
	1.0	11.9		26.6	9.7	19.8

「網かけ」がされているものが、餌となるプランクトンである。

COP：コペポータ（カイアシ類） RAD：ラジオラリア（放散虫類）

NOC：ノクチルカ（夜光虫） SYP：シフォノフォーラ（管クラゲ類）

COS：コスキノディスクス（珪藻） DOL：ドリオラム（ウミタル）

SAG：サジッタ（ヤムシ）

※今年度は、5月中旬に調査回数を増やしている。

4. カタクチイワシの漁況予測

6月下旬から漁獲されるチリメンは、5～6月に燧灘で産卵された卵がふ化、成長したものである。この時期のカタクチイワシは1日約0.7mmで成長し、漁獲サイズの30mmに成長するのは孵化してから約40日後と考えられている。したがって、早いものでは、5月上旬にふ化したものが6月中頃からチリメンとして加入し始めるものと推定される。

5月から6月にかけての卵の出現量が「前年並み～多め」であったことから、十分な産卵量は確保できていると思われる。

チリメン漁解禁後の漁況予測：産卵量は確保されているが、餌環境が「良くない」と思われる事から、チリメンの加入量は「平年並み～やや少ない」と推定される。また、6月の産卵量が非常に多い事から、今後の餌料環境次第では、7月中旬以降にチリメンの加入が増える可能性も考えられる。